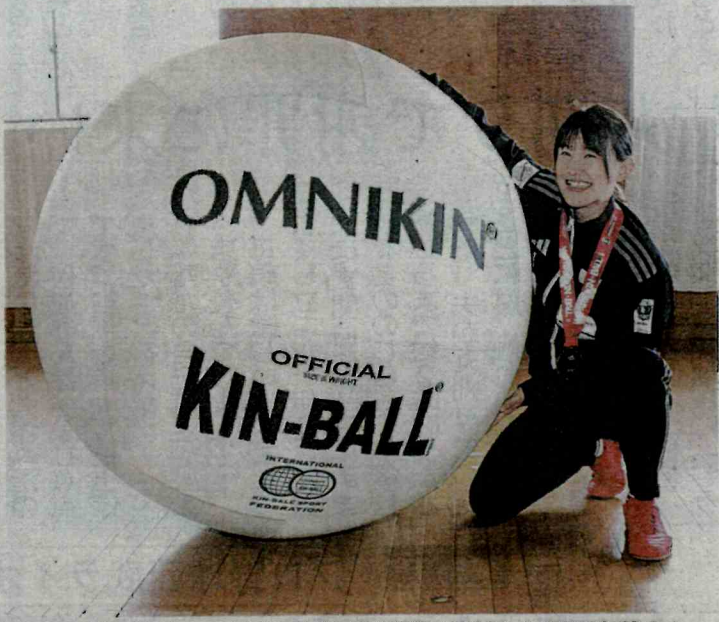


キンボールW杯 日本準Vに貢献

女子代表の岡亜寿美主将



キンボールワールドカップの準優勝に貢献した岡亜寿美さん
＝加東市東古瀬



韓国のW杯で準優勝した、岡亜寿美さん(下段左端)ら
女子日本代表(提供)

強豪と接戦 バレー経験生かし堅守でけん引

加東 韓国で開かれたキンボールのワールドカップ(W杯、11月5～10日)で、女子日本代表が準優勝した。主将を務めたのは、加東市東古瀬の岡亜寿美さん(31)。チームは昨年11月のアジアカップ(アジア杯、韓国)でも優勝しており、国際大会で2年連続の上位入賞に貢献した。(金井恒幸)

キンボールは直径約1.2メートル、重さ約1キログラムと、大きくて軽いボールを使ったニュースポーツ。1チームは4人1組で、3チームが一度に対戦し、屋内のコートでボールを繰り返して打ったり受けたりする。受け手のチームがボールを落とすと他の2チームに得点が入る。W杯は2年に1度開かれていたが、新型コロナウイルス禍の影響などもあり、11回目の今年は2019年以來の開催となった。女子は競技発祥国のカナダが圧倒的に強く、全大会で優勝している。日本は過去に準優勝を経験しており、今大会では12人を選出した。岡さんは神戸市出身。小学2年の時、父親から「面白いスポーツがある」と勧められてキンボールに出合った。中高はバレーボールに打ち込んだが、高

校の部活引退後に再びキンボールの世に臨んだ。大会は中国、香港、フランスなど12カ国・地域によって争われ、日本は予選と準決勝でカナダに勝利。「今回は(優勝)できるかも」と期待が高まったが、カナダ、ベルギーと戦った決勝ではあと一歩及ばなかった。岡さんは「カナダは予選と準決勝の敗因を分析していた。日本はそれに十分対応できなかった」と残念がる。

キンボールの魅力は「軽いボールなので子どもから大人まで遊び感覚でも楽しめる、全員が主役になれる」と岡さん。27歳の3人の子育て中で、「今後も家族と相談しながら、好きなキンボールを続けていきたい」と前を見据える。

「西脇チエック」のデザイン決定

太い赤と青の線強調



神戸芸工大・広地さん
「愛や川など表現」

西脇市がまちのシンボルとして選定を進めていた「西脇チエック」のデザインが決定した。最終候補に残った3作品に対して市民投票を実施。最も得票が多かった神戸芸術工科大学の学生、広地爽葉さん(19)の作品が選ばれた。

大阪・関西万博でのPR

獅子銀 ゆひか店
0794-68-8888

や、来年度の市制施行20周年事業に活用しようと、市が募集。全国から141作品が集まり、審査員による1次選考で3作品に絞り込んでいた。

広地さんの作品は、インターネットによる事前投票と、にしわき産業フェスタ内での直接投票で最も人気を集めた。3作品の中で最も白地が少なく、赤と青の太い線が強調されたデザイン。広地さんは市を通じ、「『大いなる愛』を意味するマゼンタ(赤)を最も多く使い、豊かな川の周りを

西脇・上戸田浄水場で21年度検出

PFA S目標値の2倍

本年度から水源1カ所の取水停止発がん性が懸念される有機PFA Sが検出されたという。国はPFA Sの暫定目標値を、代表物質PFOAとPFOSの合計で1リットルあたり50ナノグラム(ナノは10億分の1)と設定。20年度にはPFA Sを、水道法上での順守義務がない「水質管理目標設定項目」に加えている。

西脇市によると、市内にある4カ所の市営浄水場と1カ所の県営水道のうち21

番
よの天気
川 社
午前午後夜 気温 12.2
すの天気
数字は降水確率のち一時々
乾燥(5日)
油断大敵
油断大敵
本気象協会

本 本 本
ビブリ
読んで
力をス
ブリアバ
西市北条
ール(ア
階)で開
つくる同
参加者を
午前10時
の部と中
り、それ
人約5分
した本を
投票で優
No.068
花めぐり 森めぐり